

# 軽井沢に日本初の「アウトレット書店」

## 新機軸の格安書店 (by八木書店)の賑わい

今年のGW時は、コロナ禍で外出もままならず、自宅のある千葉県いすみ市で農作業をした。7月は、「GOTOトラベル」キャンペーンに合わせ、今年最初の軽井沢行きとなった。地元「ミニコミ紙」である『軽井沢新聞』と『軽井沢ニュース』に、「日本初のアウトレット書店が軽井沢プリンスショッピングプラザに誕生」という広告を見つけた。さらに、「全品新本30%～70%OFF」とのコピーも。早速、翌日に行ってみた。

店名は「PAGES」というが、

## 書籍文化再興の 一拠点として

店内には、1500品目の本を10冊程度ずつ、合計1万5000冊程度を配架している。値引きはされているが、確かに新本である。ただ、裏表紙のバーコードの位置には、「PAGES」の名前入りの新たなバーコードのシールが貼られており、会計や在庫管理に利用されている。新刊価格の60%程度の値段となっている。

例えば、2000円の本が1200円であり、好きには、たま

モルでアルバイトの人に聞いてみると、「ああ、タリーズの隣で、



「PAGES」の店内風景

絵本を売っているお店ね」と、教が、2人とも本好き。奥のほうで、なるほど、その通り、妻がお店の人と楽しそうに話して、で、店先には絵本が並んでいる。しかも、外国の絵本がたくさんあり、ふつうの役・八木唯貴とある。このユニークなアウトレット書店の店長は神田の老舗書店の一族であった。ボップも賑やかだ。

店内は、子供やその保護者らしい大人、そして女性客やカッパルなどで、かなりの賑わいだ。その日は、7月24日、体育の日。コロナ禍中の4連休の最中で、ショッピングモールの芝生やベンチにもたくさんの人出があり、賑げる。筆者は妻と行ったのだという。

私の質問は、無粋にも「どうして新本を値引き販売できるんですか？」と直球だ。いやな顔もされず、説明してくれた。専門的な話ではないが、かいつまんで言うと、出版社が抱える在庫の中から出版社の判断で再販売価格維持契約の対象から外す形にして買い取り契約を行い、日本初のアウトレット専門店が展開すれば、全国に波及するきっかけになる。地方での書店の撤退が目につく

この業界に、明らかにインパクトを与えることになるだろう。文字通り書籍文化の再興の切り札になるのではないかと、筆者は歓迎したい。



裏表紙のバーコードの位置には、PAGESオリジナルのバーコードが貼付されている

らない値段である。おまけに、店内には、5冊まとめ買いで、販売 戯画図など興味ある本をこの際

冊以上まとめ買 八木店長は、展示にも工夫し、では、20%の値引きと、基本的には、背表紙だけ引くと表示がでなく表紙が見えるように書棚り、妻殿は、さっ



表紙がよく見えるように配架

## 地元力発見!

佐藤建吉 「洗楓座」代表

④

そく8冊を選んでレットだから投げ売りという感

1950年山形生まれ。東京都立大学院卒。元千葉大大学院工学研究科教授(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道の製造・販売」を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。「全国ふるさと大使連絡会議」理事